令和 6 年度 総務常任委員会行政視察報告書

・日　時：令和６年１０月２９日（火）～３１日（木）
・視察先：千葉県富津市、館山市、四街道市
・参加者：委員長 田原祐二　　副委員長　坂本哲知
　　委 員　小春　稔　　委 員　堀　典義
　　委 員　泥谷　修　　委 員　船尾はるな
　　随 行　等岳　兼生

□千葉県富津市
テーマ：持続可能な行政運営に向けた経営改革について
視察日：令和６年１０月２９日（火）
場所　：富津市役所
対応者：富津市議会議長　平野英男　富津市議会副議長　諸岡賛陛
　　富津市財政課長　平島光洋　富津市財政課長補佐　太田英明
　　富津市財政課経営改革推進係長　石原直美
　　富津市議会事務局長　坂本秀則　富津市議会事務局主幹　澤邊高廣
　　（敬称省略）

１）　富津市概要
　富津市は、房総半島の中西部東京湾側に位置し、南北 40 キロメートルに及ぶ海岸線と、緑豊かな鹿野山や、切り立った崖の鋸山など、海や山に囲まれた自然豊かなまちです。
東京湾に突出した富津岬は、関東の天の橋立といわれ南房総国定公園にも指定されています。富津岬の最先端にある五葉松をかたどった展望塔は、東京湾を一望できるだけでなく、冬に空気が澄んだときは富士山をくっきり観ることができます。また、ここから観る富士山は絶景で、関東の富士見百景に選ばれています。
東京湾アクアラインや館山自動車道の開通で、首都圏からのアクセスが向上、利便性が高くなり、潮干狩りや海水浴、ハイキングなどで多くの皆さんに楽しんでいただいています。
「市民が自信をもって次世代にバトンを渡せる富津市づくり」を念頭に、富津市に住むことに誇りや愛着を持ち、幸せを実感していただけるよう取り組んでいます。
（富津市 Web サイトより）

２）　視察内容

富津市は平成２６年８月、中期収支見込の中で平成３０年度には累積赤字が２２億円と財政再生基準を超え、北海道夕張市と同様、財政再生団体となる恐れがあると公表した。これは予算に対し４億円足りない時に、あまり見直しもしないまま基金（市の貯金）残高６億円の中から支出するなど、場当たり的な予算編成をしてきたことが原因だった。そこで持続可能な行政経営に転換するため平成２８年１月に経営改革プランを策定し、様々な分野で収支改善に取り組んだ。その結果、平成２７年度から令和元年度末までの間に約３６億円を目標とした収支改善額は約５０億円と大幅に改善。令和３年１月には令和３年度から７年度にかけての５か年の経営改革を盛り込んだ中期財政計画を打ち出して取り組んでいる最中である。平成２６年度時点では６．５億円だった基金は令和５年度時点で２８．３億円にまで積み立てている。今後も身の丈に合った規律ある財政運営を目指すとのこと。

３）　所見

歳入の中で、納税については、新規滞納者の防止対策、滞納額の縮減対策に特に力を入れて成果を上げている。また、ふるさと納税も年々増加している。

歳出では、常勤特別職給与の引き下げ、職員手当の削減（4,100 万円)、職員数は 5 年で８８人の削減（9 億 2,462 万 4 千円の削減)、公共施設維持管理基金の創設（5 年間で 3 億 8,190 万 1 千円の積み立て)、普通建設事業費の見直しにも力を入れている。

加えて、事務事業の見直し（5 年間で 7 億 6,695 万千円削減)、補助金等の見直し（5 年間で 40 の補助金を廃止、1 億 3,088 万 9 千円削減）も行っている。

以上、主な対策と実績だが、杵築市でも同様の対策を実施している。

今後は市民サービスの低下を招かないよう、事業のスクラップ＆ビルドを行いながら、効率的な事務事業が展開できるよう議会としても努めたい。




伊藤園
お～お茶
mini350
ようこそ富津市へ
様
日　時　令和6年10月29日（火）
午後1時
場　所　富津市役所301会議室
1　開　会
2　富津市議会議員あいさつ
3　袴塚市議会議員あいさつ
4　担当事項説明
・持続可能な行政運営に向けた経営改革について
① 令和5年度決算状況
② 経常収支比率等の財政指標
③ 具体的な経営改革の内容
富津市総務部財政課説明
5　袴塚市議会議員あいさつ
6　閉　会

□千葉県館山市
テーマ：移住・定住促進の取り組みについて
視察日：令和６年１０月３０日（水）
場所　：館山市　みなとオアシス“渚の駅”たてやま
対応者：館山市議会議長　太田浩　NPO 法人おせっ会　理事長　八代健正
　　館山市雇用商工課　副課長・雇用定住係長　並木敏行
　　館山市雇用商工課　主事　八木拓真
　　（敬称省略）

１）　館山市概要

年間平均気温 16℃以上の「千葉県房総半島」南部に位置する「館山市」。

私たちの館山は、温暖な気候に恵まれて、1 月にはポピーやストック、菜の花が咲き誇り、花畑は満開になる「花のまち」です。

また、34.3 キロの海岸線を持ち、スキューバダイビングをはじめとしたマリンスポーツや夏の海水浴の適地として、さらには、サンゴやウミホタルの生息域として、多様性に満ちた貴重な海洋資源を有する「海のまち」でもあります。

緑豊かな館山市は、県立館山野鳥の森が「森林浴の森 100 選」、平砂浦海岸付近は「白砂青松百選」「日本の道 100 選」にも選ばれています。

また、中世の頃には、戦国武将里見氏がこの地を治めていました。

曲亭馬琴作の「南総里見八犬伝」の舞台になったこの地には、今でも里見氏の史跡の数々や八犬伝のロマンが香る史跡が残されています。

住んでよし、訪れてよし、館山は魅力あふれるまちを目指しています。

（館山市 Web サイトより）

２）　視察内容

館山市は隣接する南房総市と協力して移住・定住施策を行っており、その窓口として NPO 法人おせっ会に平成２４年度から委託している。委託料は年間４５０万円。おせっ会は移住相談を受けたり、空き家バンク、求人の紹介、移住体験ツアーや婚活イベントの開催などを行っている。Youtube チャンネルを開設しているが、物件紹介は効果的だと実感している。動画を見た人からの反応が早い。東京のハローワークまで行って移住・定住イベントを行うよりも効果的とのこと。

３）　所見

移住定住に関する業務を複数の自治体が共同で民間委託しているというのは珍

しく、民間ならではのフットワークの軽さというのもあるのだろうが、様々な方法で地元を盛り上げるための取り組みを行っている。中でも、Youtube による宣伝効果は東京でイベントをやるよりも高いと仰っていたのが印象的だった。

杵築市も HP 等の公式チャンネルを持っているが、効果的に Youtube を活用することで強力な広告ツールになるのではないかと感じた。



□千葉県四街道市
テーマ：シティセールス推進事業について
視察日：令和６年１０月３１日（木）
場所　：四街道市役所
対応者：四街道市議会議長　　関根登志夫
　　四街道市議会総務常任員会委員長　田中徳彦
　　四街道市政策推進課長　三好周
　　四街道市政策推進課魅力発信係長　古川清純
　　（敬称省略）

１）　四街道市概要

四街道市は、千葉県北西部に位置し、千葉市と佐倉市に隣接し、土地は平坦で市の東部を印旛沼に注ぐ鹿島川が流れております。 当地は、佐倉藩の大砲射撃場が設置されて以来、市中心部にある大土手山を着弾目標とした大砲射撃演習が行われました。

明治２７年（１８９４年）に千葉県初の鉄道として総武本線が佐倉まで開通すると、軍施設も拡大される一方、新しく設置された四街道駅周辺にも町並みが形成され併せて商業もこれに付随して興りました。大戦後は、不要となった陸軍演習場が食料生産地として開拓され、農業を中心とした平和な町へと移行していきました。軍施設は役場、学校、公民館などの公共施設に利用されてきました。

この間には、明治２２年の町村施行により生まれた千代田村と旭村は、その後千代田村は千代田町へ変わり、昭和３０年には千代田町と旭村が合併して四街道町が誕生いたしました。農業が中心であった町も昭和４０年代の高度成長期にはいり、急速に都市化が進められ首都圏のベッドタウンとして発展し、急速な人口増加となり昭和５６年に四街道市として生まれ変わりました。

平成１６年には国の平成の大合併の方針に従って千葉市との合併も検討されましたが現在に至っております。

（四街道市 Web サイトより）

２）　視察内容

四街道市は千葉市や東京から近く、ベッドタウンとして栄えてきた街で、人口も増加基調を維持してきた。しかし、将来的に予測される少子高齢化による人口減少や人口構成の不均衡に対応するためのプロジェクトのひとつとして「シティセールスプロジェクト」を立ち上げた。

シティセールスとは「市内外の人の関心を高め、市の認知度の向上を図るた

め、市の魅力を効果的に発信するとともに、新たな魅力の創出にも積極的に取り組んでいく活動」と定義されている。市の認知度と理解度を高めて子育て世代を中心とした若い世代の転入と定住を図ることを目的としている。

平成２６年度から準備を進め、平成２７年度から「シティセールス推進課」を発足、民間の広報経験者を課長として招聘して事業にあたり、市に所縁のある著名人を PR 大使に任命したり、フィルムコミッションでメディアへの露出を増やし認知度を高めることなどを行ってきた。

また、PR TIMES 株式会社へプレスリリース配信代行委託した。年間１００万円程度の費用は掛かるが、大手ニュースサイトに掲載されたりするので認知効果は高いとのこと。SNS による情報発信も Facebook、LINE、Youtube、Instagram 等それぞれ主な利用者の年代が異なるので、媒体に応じた情報を発信するようにしている。

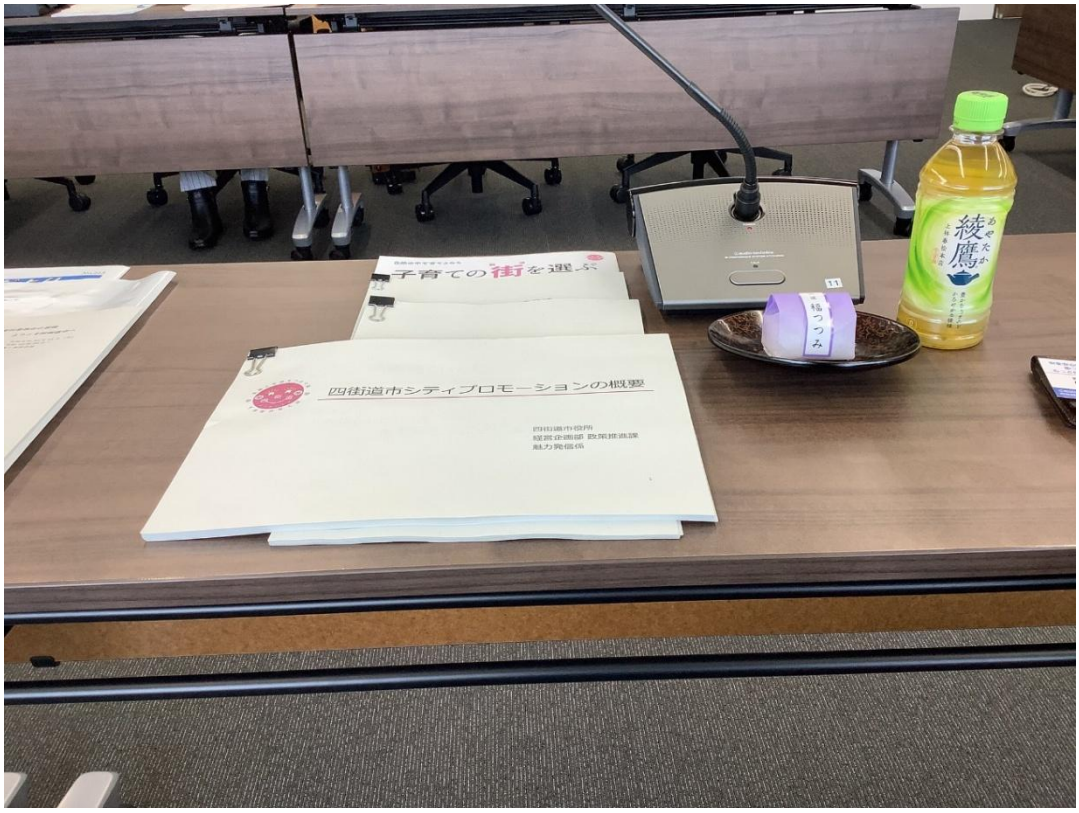
令和６年度から開始した四街道市基本計画を軸に「シティプロモーション」に全庁的に取り組み、四街道市のブランド価値を高め、市民が誇りと愛着を持てるよう目指している。

３）　所見

四街道市は首都圏のベッドタウンという立地条件もあり、杵築市を取り巻く環境とは大きく異なるが、認知度を高め移住定住者を増やすための広報戦略は参考にできるところも多いと感じる。

館山市の視察の時にも感じたが、SNS を積極的に活用することで施策についての認知度も上がり、移住定住の選択肢につながるのではないかと感じた。




子育ての街を選ぶ
四街道市シティプロモーションの概要
綾鷹